

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100348		
法人名	株式会社 ニックス		
事業所名	グループホーム 花咲楼		
所在地	広島市東区尾長東2丁目6-34		
自己評価作成日	平成27年10月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100348-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年11月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様一人ひとりがその個性を活かし、豊かな生活を送られるようにスタッフ一同が心掛けています。頻繁に声掛けを行い、精神面・体調面の変化を敏感につかみ取れるように努力しています。そして、笑顔が絶えない雰囲気作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1 当該事業所はJR広島駅東部近隣の古い歴史ある閑静な住宅地にあり、公共交通機関などの便が良く訪問・面会・外出支援等の地理的環境に恵まれている。
2 施設は軽量鉄骨造り、ホームの名称に相応しい和風2階建てで、各階部1ユニットの2ユニット18名が入居している。近隣に同一経営母体のグループホーム及びデイサービス・訪問看護施設が併設し、相互に協力連携して各種行事や活動を行い、地域の介護施設として貢献している。
3 職員は若手が多く、管理者を中心に理念である「相手本位の心」の下、日々の支援に「笑顔」を絶やさぬ明るい雰囲気の醸成に努め、利用者ひとり一人の見守り、声掛けを励行して利用者が自分で出来ること・得意な事はやっってもらおう等、自立できる支援を目指しており、昨年に比べ施設内の雰囲気が明るくなったとの評価を得ている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念「相手本位の心」に基づき、受容と寛容の心で、否定をすることなく、利用者様の立場での介護を考えている。	事業所創設以来の「相手本位の心」を理念として大切に、事務室に掲示して、ミーティング時に職員相互に確認しているが、実践に繋ぐ具体的な方策は採られていない。理念とは別に、運営方針5項目が具体化したサービス方針として掲げられている。スタッフは「笑顔」をモットーに、日常の業務に当たっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年、夏祭りを開催し地域住民やボランティアの方々と交流している。地域の保育園の運動会に参加したり、園児が来所し、レクリエーション交流もしている。ボランティアによるフラダンスなどの交流もある。	町内の自治会に加入し、定例会へ出席したり、地域の祭りや運動会など地域の行事やイベント主体に、積極的な交流を図っている。日常的な交流としては、散歩時の挨拶や会話、花や野菜等のおすそ分け等、近隣住民の理解や協力を得て、地域に自然に溶け込む努力や支援が積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏祭りなどで法人による相談の窓口を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	様々な人に参加していただき、現在の状況や事故の報告なども積極的に行っています。その時に出た様々な意見をより質の高いサービスに活かせるように取り組んでいる。	運営推進会議は、不定期に年間6回、隣接する同一経営母体の「グループホームかぐや姫」と合同で開催されている。議題は事業所側の現状や行事報告を主体に、一部参会者の意見交換が行われている。参会者は事業所側を主体とし、利用者家族、行政関係など比較的少数である。	会議は家族参加を期待して毎回日曜午前中に計画されているが、参加者が少ない。また、行政関係者や地域住民もほとんど参加していない。議題も運営の現状や課題・取組み状況など、サービスの実際に関するものが少ないためか、活発な意見交換も行われていない。本来の会議の趣旨に沿った内容・運営改善を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	町内会に参加し、事業所の現在の取組みなどを説明させて頂いている。	定期的に行う運営推進会議等にも、市町担当者の出席もなく、大半の事務処理事項は経営母体の本社が窓口となるため、直接事業所が接触する機会は少ない。地域包括支援センター職員は、会議等で顔を合わせることもあり、その他連絡等で積極的に関わる努力をしたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関などの扉は、防犯上の理由からも、電子ロックを使用しているが、利用者個人に対する身体拘束は行っていない。</p>	<p>身体拘束に関する職員教育は、法人研修及び事業所内教育として、年間に各1回づつ行われ職員が参加している。施設内の共用空間や玄関等、主要な場所を監視するテレビモニターが事務室に設置され、身体拘束防止の一方策として採用されている。保安面から家族要望により、玄関は施錠されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>何が虐待に当たるのかを考え、虐待を見逃さないためにも、利用者様の精神状態や身体状態に、職員一人ひとりが気を付けている。また虐待の疑いがある場合は速やかに報告するように徹底している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員も少しずつ勉強をしています。必要であれば、ご家族様と連携をとって、成年後見制度を利用して頂くようにします。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には約款を説明し、その都度、質問・疑問・不安などを聞いて納得されるまで説明するようにしています。また、重度化した場合の対応や、リスクの説明も積極的に行っています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様・ご家族様の意見や要望は職員も含めて熟考し、取り入れるべきものは、なるべく取り入れるようにしている。</p>	<p>利用者・家族の意見や要望は、日々の面会や電話等による連絡時に聴取するほか、運営推進会議や家族会等の機会に聴取している。また、毎月行う「運営に関するアンケート調査（回収率80%）」の中の意見・要望を運営に反映させている。一例として、食堂の椅子に「利用者の名前札」を付ける要望を実現した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に職員の意見や提案を聞く場を設けている。その場で意見を提案は、出来るだけ実現できるようにしている。</p>	<p>月1回の職員ミーティングで職員の気づきや意見・提案を聴く場を設け、意見の交換を行っている。また、職員の表情等により、個別の面談を行ったり、極力意思の疎通を図り、職員の意見が運営に反映できるよう工夫している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定期的に職場環境や条件についての希望を聞く場を設けている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内外の研修が、月1回以上開催されている。職員のユニット間での異動を定期的に行い、個々の技量を高める試みをしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>隣接するグループホームとの会議を週一回行っている。その場で意見交換や情報交換などを行っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前より、本人様・ご家族様との面談、担当ケアマネージャー・施設よりの情報収集を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事業所の見学時より、ご家族様と面談し、質問や要望になるべく応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	集めた情報を基にケアマネージャーと共に本人様にとって必要な支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を念頭に置き、過剰な介護は行っていない。職員と利用者様はお互いに「ありがとう」と言える関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様にも、積極的に関わりを持って頂けるように、行事やイベントがあるときには、事前に連絡をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人の面会や、ご家族と共に馴染みの場所に行かれることは歓迎している。	入居時のアセスメントや本人との日常会話の中から、馴染みの人や場の把握に努め、また隣接する同一経営母体のグループホームや、デイサービスの知人、利用者との交流を促進したり工夫している。面会や訪問する知人・友人には、積極的な声掛けや接遇に努め、再来を依頼したり、関係の維持継続に努めるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中はなるべく声掛けをして、デイルームにて他の利用者と一緒に過ごしてもらえているようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も、ご家族様や施設などからの相談などには、出来る限り応えるようにしている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り、本人様より聞き取りをして、思いや希望等を確認している。困難な場合は、本人様の立場に立って検討している。	入居時のアセスメントを参考に、職員が日常の会話や問いかけ・観察等により利用者ひとり一人の思いや意向を聴き取り推察し、申し送りノートやケース記録に記載し、全職員に周知するとともに、思いを共有・把握して、本人の希望を重視して日常の支援や介護計画へ反映するよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、これまでの生活歴や生活環境、サービスの利用状況を把握するようにしている。入居の際に、馴染みの品（家具・食器など）を持ち込んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員一人ひとりが、日々の小さな変化を見逃さないように注意している。またそのことを記録として残すように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様・ご家族様に意向確認を行い、職員の意見や気づきなども取り入れたケアカンファレンスを行っている。</p>	<p>利用者毎に担当職員を決め、日々のケース記録や申し送りノートを基に、3ヶ月毎にケアカンファレンスを行い、利用者・家族・職員・看護師等関係者で話し合い、介護計画を作成している。特に、全職員の意見やモニタリングの現状を重視し、現状に即した計画となるよう工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々個別のケース記録を記入している。それを確認することで情報の共有や新しい発見・アイデアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人様の状態や家族様からの新たな要望に対しては、なるべく柔軟に対応するように考えている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の保育園との交流や、地域の美容室による出張理美容を行っている。また、散歩の時などは、近所の方にお庭の花を見せて頂いたり、切り花を頂くこともあります。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人様・ご家族様の希望があれば、かかりつけ医の受診も可能であり、その医療機関との連携もとっている。</p>	<p>入居時に本人・家族の要望を確認し、以前からのかかりつけ医を希望する方は基本的に家族対応で受診している。事業所としては、協力医が週1回往診で利用者の健康状況を把握している。かかりつけ医・協力医・事業所及び本人・家族間の連携は、受診や往診の都度確認しあって、適切な医療支援を受けられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の体調の変化や異常について、看護職員に報告し、連携して対応している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者様が入院した場合は、状態の報告を速やかに行い、ご家族様・病院関係者と相談し、今後の方針を決めるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居契約時に重度化した場合、終末期のあり方については、説明しているが、その可能性が出てきた場合には再度、方針の確認を行うようにしている。</p>	<p>入居時に重度化した場合や、終末期の在り方について、本人・家族と話し合いを行い、事業所が出来ることを説明し「重度化した場合の介護について」の同意書を交わしている。状況が変化した場合には再度方針の確認を行い、職員・看護師・協力医など関係者をチームとして支援に取り組むような体制を採っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>初期対応については、職員全員が実践できる能力があるとは言えず、更に実践力を身につける必要がある。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練や消防研修などには参加しているが、万全とは言えない。</p>	<p>消防訓練は、消防署立会いの下、1回/年実施、防災センターの研修に職員が、1回/年参加している。災害時の職員対応や地域住民との協力体制については未だ築かれていない。</p>	<p>災害対策として最も懸念されることは、職員一人体制の夜勤時の対応である。日中、しかも隣接する同一経営母体のグループホームと共同で行う、年1回の防災訓練のみの現状では、高齢化が進んだ利用者の夜間時の避難誘導を単独の施設として行うことは、困難で、地域の協力体制を含めて速やかな改善・対策を期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の自尊心や羞恥心に配慮して、声掛けや対応を行っている。	法人内研修等により、人格の尊重とプライバシーの確保について、職員意識の定着を図り、OJTとして管理者自らが「利用者は人生の先輩であり、年長者として尊敬の念を持って接する。」ことを指導し、嫌がることや不得手なことをさせず、好きなことや得意なことをお願いし、自信と誇りを持つ様にするなど、具体的支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の意思を尊重し、無理強いや、強制を行わないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務より利用者様優先に、一人ひとりに合ったペースで、生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時には、可能な限り本人様に整容を任せている。また毎月、地域の美容師による散髪や毛染めが行われている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の前には、テーブル拭きをして頂いたり、食事中は音楽を流したり、食後は下膳や食器洗いを手伝って頂いている。	食事は、隣接の同一経営母体の配食サービス事業部から、副食の配食を受けており、基本的にはご飯と汁物のみ施設で調理している。季節や行事に対応して、あまり適切にメニューを変更することはでき難いが、ケーキを付けたり、ご飯をちらし寿司に変えるなどの対応で、食事を極力楽しみなものにするよう工夫し、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者様一人ひとりに合った食事形態にて、提供している。食事量・水分量は毎食記録し、摂取量の少ないときには声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアの声掛けと誘導を行い、十分でない利用者様には指示や介助を行っている。また2週間に一度、歯科往診がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、早期に声掛けを行うことで、失敗や失禁の回数を減らすようにしています。	利用者個々の排泄パターンを「排泄チェック表」に記録・把握し、また見守り等により、動作や素振りや便意を察知して、極力トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援に努めている。排泄パターンの把握により、早めの声掛けや対応が可能となり、紙パンツの使用を減らした実績がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の利用者様には、特に水分摂取の声掛けや、ホットタオルを行うなどしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を嫌がられる利用者様に対しては、時間をあけて声掛けを行うなどして、無理強いをしないようにしている。	入浴は利用者の体調や希望を配慮し、2回/週を基本として、午後から実施している。夕方に入浴希望する利用者などにも、柔軟に応じて支援している。また、入浴剤の使用や湯温等の好み、入浴時間の長短の希望などにも対応するよう支援している。身障者には「車椅子入浴装置」の特別浴槽を設置し、安全・安心に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>消灯時間は21時になっているが、その時の状態によって柔軟に対応している。また、よく眠れるように日中には、なるべくデイルームで体操などに参加して頂けるように、声掛けをしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬時には、ご本人様と一緒に名前と日付などを確認している。新たに処方された薬がある場合には、副作用などに注意するようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食器洗いや洗濯物を干す、たたむなどのお手伝いをして頂いたり、合唱やクイズなどにも参加して頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近所の公園まで散歩したり、ご家族様と外出されたりはしている。</p>	<p>日常的な外出支援は、お天気にもよるが、利用者の希望に応じて、近隣の公園付近まで散歩している。遠出を伴うドライブや季節的な花見や紅葉狩りなどの支援は計画的に実施しているが、墓参りや外食など個人的な外出の要望は、家族対応でお願いし実施している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族様から預かっているお金で、外出時に食べ物などを購入することもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者様に年賀状を書いて頂いて、ご家族様に送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>毎日、清掃を行っている。室内の照明・室温にも配慮している。天気の良い日には窓を開け、外の空気や風を感じて頂いている。</p>	<p>共用空間は清掃が行き届き、室内の照明・室温・換気が適切に保たれ、室外の花壇や畑も季節感を醸している。また、職員による生け花や、利用者が作成した折り紙・書道・塗り絵等の作品が、室内に調和するよう飾り付けられて、落ち着きのある居心地の良い空間となるよう職員の手で工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テレビを見るときには椅子に座ったり、新聞を読むときには、ソファに座ったりして、思い思いの場所で過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時には馴染みの品を持ってきて頂けるように説明している。</p>	<p>居室の備品は空調機器だけで、ベッド・箆笥・椅子テーブル等の家具類やテレビ等の電機器具などすべては、入居者の使い慣れた物が持ち込まれ、居心地よく過ごしている。室内に畳を敷いたり、仏壇を持ち込むなど入居者の好みや希望を重視し、日々の生活に配慮した支援を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立支援のための最小限の介護を行うようにしている。分からないことがあれば、紙に書いて貼っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム花咲楼

作成日 平成28年1月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の家族・地域・行政の参加が少ない。活発な意見交換が行われていない。議題・内容も不十分。	家族に積極的な参加を促す。地域住民の多数参加を目指す。	家族の興味のある議題を考える。毎月の町内会集会などで地域住民に会議参加をお願いする。	H27. 12. 20の会議では町内会の方も参加された。さらに継続して訴える。
2	35	夜勤時の災害対策の不備。地域との連携体勢の不足。	災害時の隣接施設及び近隣住民との連携強化。	隣接施設との会議時に連携の再確認。町内会集会で当事業所での消防訓練などの近隣住民の参加の呼びかけを行う。	来年度、消防訓練実施時までに（現時点では日時は未定）
3	1	介護現場の職員全員が自ら考えて掲げた「理念・目標」がない。	年度毎に、職員全員で共有できる理念・目標を設定する。	年度初めに施設内の全職員で理念・目標を考えて話し合い、理念・目標を決定する。	平成28年4月以内に実施・施行
4	13	職員個々の技量に格差がある。	職員個々の更なるレベルアップ。サービス水準の向上。	ミーティングや申し送り・職務中の職員間での指導・連携の強化。研修への積極的な参加を促す。	随時
5					
6					
7					
8					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。